

令和6年度 第1回 森町総合教育会議会議録

日 時：令和7年2月17日（月）15：30～

場 所：森町福祉センター（森町公民館） 1階 大会議室

出席委員：毛利教育長・三輪委員・長瀬委員・古川委員

出席者：岡嶋町長

坂田学校教育課長

藤嶋学校教育課参事

名生学校教育課参事

須藤社会教育課長（兼）森町公民館長（兼）図書館長

木村体育課長（兼）体育館長（兼）青少年会館長（兼）生涯学習課長

敦賀森町学校給食センター長

吉田学校教育課学校教育係長

西川学校教育課総務係長

石井学校教育課総務係主事

署名委員：三輪委員・古川委員

議 題：（1）森町特色のある学校づくり推進事業補助金について

（坂田学校教育課長）

はいそれでは只今より令和6年度第1回森町総合教育会議を開催いたします。まず始めに岡嶋町長より挨拶をお願いいたします。

（岡嶋町長）

はい、皆様お疲れ様です。令和6年度第1回森町総合教育会議にあたりまして、一言ご挨拶したいと思います。お忙しい中ではありますが、お集まりいただきましてありがとうございます。前段で教育委員会が開催されていたということでございますけれども、改めて新年度に向けて本日議題に上がっていますけれども、新年度の事業として新たな施策的な事業をひとつ議会に上程予定でございます。後ほど詳細については事務局、教育委員会からご説明差し上げる次第でありますけれども、一つお伝えすることといたしましては、やはりこの昨今様々な学校現場を本当に色々な課題そしてまた施策等を手がけて行かなければならない中で、色々な担い手、先生たちの不足ですとか、様々な働き方改革における色々な部分に対応しなければいけないそういった状況が年々高まっている中で、何か非常に大変な状況の中においても、やはりこの校長を始めとして施策的に様々な特色のある学校運営というものを町長部局の方としてもぜひとも力強く応援して、支援して行きたいという思いの中での今回の事業であります。出来ることと言えばやはりこの予算を確保して提供すると言う中においては、このぐらいの規模で各学校に裁量権と予算というところのものを与えるというのはあまり北海道内では無い事業であります。一部少額の事業費で行ってい

る市町もあつたりするんですけれども、やはりこれだけのものというのはなかなか前例が無くても色々のご意見もあると思いますし、色々なお話もこれから出てくるのかと思います。しかしながら、色々なことに挑戦しながら学校現場のエンパワーメントというところで、力を引き出す、先生たち、そして学校、今までも様々な課題解決そして色々なことに挑戦して来ていただいて公教育のより良い環境というものを今までも作って来ていただいていると思います。それプラスさらに高みを目指して、我々町長部局も教育部局も学校現場も一丸となって森町の教育環境というものをさらに良いもの、先生たちにとって働きやすい環境、校長にとって挑戦できる環境、そういったものを施策で実現していければと思っています。様々なことについて忌憚なきご意見をいただきたいと思いますので、本当に色々なお話をいただければと思います。まずもって開会のご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくをお願いします。

(坂田学校教育課長)

ありがとうございます。これ以降の議事進行につきましては、岡嶋町長をお願いします。

(岡嶋町長)

それでは会議に先立ちまして会議録署名委員の指名を行います。本日の会議録署名委員に古川委員と三輪委員を指名いたします。どうぞよろしくお願いします。

それでは次４番議題につきまして協議調整事項（１）森町特色のある学校づくり推進事業補助金について事務局より説明をよろしくお願いします。

(坂田学校教育課長)

はい、森町特色のある学校づくり推進事業についてご説明いたします。資料をお開き願います。事業の目的につきましては、学校長の裁量による予算執行により、学校の自立度を高め、より特色のある学校づくりを促し、児童生徒に応じた教育課程への対応を目的としております。対象事業につきましては、児童・生徒の教育活動の充実に資する事業、地学協働の推進に資する事業、教職員の研修・研究等に資する事業、保護者の研修・研究等に資する事業、学校長の経営ビジョンの実現に資する事業としております。補助金の額につきましては、予算の範囲内で学校割７５％と児童生徒割２５％で計算した額を端数整理した額を各学校の補助金限度額といたします。基礎となる児童生徒数は前年度の５月１日現在の数としております。令和７年度事業につきましては、令和６年５月１日現在の児童生徒数となります。令和７年度のそれぞれの学校の補助金限度額につきましては、森小学校２，６２０千円、鷲ノ木小学校１，６２０千円、さわら小学校１，８００千円、森中学校２，２４０千円、砂原中学校１，７２０千円となっております。森町特色ある学校づくり推進事業にかかる予算案につきましては、小学校費中学校費合わせて１０，０００千円でございます。なお事業を実施した学校については、年度末に報告会で成果を報告していただくことを検討しております。

す。事業実施期間につきましては毎年議会の議決が必要となりますが、令和7年度から令和10年度までの4年間を考慮しており、その後は見直しを含めて検討してまいります、以上説明とさせていただきます。

(岡嶋町長)

はい、ありがとうございます。ただいま説明させていただきましたこの事業に関しまして、質問ご意見で何かございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。冒頭でも少しお話させてもらったんですけれども、非常に実験的要素というのが強い事業になるのかと思います。そのために色々な課題や現場の意見というものも吸い上げながら、4年間で何かしら検証を行いながらというところであって、この4年間という事業期間を設けております。ですから、そういったことも含めて学校の教育現場サイドに関しては、色々な内側からの話ですけど、現場からのフィードバックですとか話ですとか、そういった相互に色々な意見をやり取りしながらこの事業を進めていければ良いかと思っております。

(長瀬委員)

よろしいですか。すごくイメージがまだ湧かないというか、基本学校側に裁量権を持たせて、言い方が正しいかどうか分からないですけれども、好きな事業をやっているよということなんでしょうか。

(坂田学校教育課長)

この対象事業に沿ったものであれば言い方悪いかもしれませんが、好きな事業をやっていただくということですね。ただ先ほど言ったとおり、年度末に報告会を考えておりますので、報告した時に「良い」と言ってもらえるような事業で、「これだったらちょっと」と思われる事業はということなので、校長自体もかなりプレッシャーがかかる事業かという風に思っております。

(長瀬委員)

例えばどういった事業とかも予想されますか。

(岡嶋町長)

これは本当に校長のやる気次第と言ったら少しそぐわないんですけども、アイデア次第ですね。逆に課長も言ったとおりプレッシャーもかなり大きいと思います。ですから当然成立するというか、事業として出してくる学校、出してくない学校というのも、もしかしたらあるとは思いますが。初めから全てフルで色々なものを求めるというよりは、やはり各それぞれの学校の色々な事例を参考にしてもらいながら、4年間でやっていくという流れが大きな流れなのかとは思いますが。どうなるか少しわからないですけれども、方向性・流れと

してはそうなるということです。やはり近年例えば今までやらせてもらった CAP の事業ですとか、例えば本当に色々あるんですけども、性教育の事業だったり、外部から人材を求めたりというところにおいては、やはりある程度裁量というものがお金と含めてあれば色々なもつと幅が広がるのかと思っております。とある学校にお伺いした時には、やはり限られた予算で創意工夫をしながら特別な部屋作っていたりする学校だとかもあったりします。結果その報告に耐えうるところというのはやる前に少し考えていただかなければならないと思うんですけども、そうは言いながらもやはり色々なものを繰り返しながらどうあるべきかというのは一緒に学校側にも考えて頂きたい事業になると思います。その辺は非常に悪く言うとはブレながら前に進んでいっても私はある程度は仕方ないかと思います。ただ何か買ったりですとか、そもそも教育委員会で予算を取って教育委員会の予算で買うべきものという事業にはそぐわないかと思います。そこは本当に学校長、そしてその下の先生達の力を引き出すというところを最大の趣旨として私は考えております。

(長瀬委員)

これは事前申請みたいなものはありますか。

(坂田学校教育課長)

はい、補助事業ですので、一応都度こういった事業だということを申請してもらいます。基本この対象事業はほぼ何でも出来るようなイメージだと思いますので、受けるような形にはなってくるかと。幅広く受けられるような対象事業になってますので。

(三輪委員)

例えば報告したときに「これをこうしろああしろ」と言ってしまったら先生方のせつかくのこの助成金とその使い道が、今度逆に狭められてるというか、出せなくなってしまうたら意味がないことですものね、これは。だからそういう意味ではある意味、校長先生ばかりでなく先生方と学校の教職員が色々なことについて意見を出し合って使ってもらえるという部分では、すごく本格的なことだと思うんですね。だからそれを1年間はきっと試行錯誤で迷いながらも教育委員会とか例えば町長や教育長のご意見を聞きながら、きっと1年間はそういう準備期間、足固めの期間であると思うんですね、きっと。そこからの第一歩がすごいのではないかなと思って、期待できるそういう施策だと思います。

(岡嶋町長)

ぜひその(学校の)色を出してくださいねということで。

(三輪委員)

でも、とても難しいことですよ。『あげますよ、使ってください。』と急に言われても。

そういう意味では少し嬉しいような、色々な思惑があると思いますけれど、学校にこういうことを行政が投げかけるということは、とても私もすごいことだなと思いました。今まではやりたくてもお伺い立てても予算がありませんというので縛られてきての学校活動だと思っていましたものね。でも森町は今までそういう意味でも教育には力を入れてくださっているので、他のところよりは。なおさらプラスこの事業ですから、すごいなと思いました。

(岡嶋町長)

凄く実験的というか、色々なことが起きると思いますし、当然議会からも色々なことについて指摘を受けることだと思うんですけども、やはりやる価値があると思っていますし、ぜひとも良いかたちにしたいと思います。

(三輪委員)

外部講師なんかも、こういうところには先生方の力では少し弱いから、こうしようということが出来る部分では画期的ですよ。

(岡嶋町長)

本当に研修だとかにも使えますので。

(三輪委員)

研修・研究の部分で積み上げたものを保護者の方と一緒に広げていく、それが子供たちのためにという風になった三段活用のように、そういった活動の活用の仕方ができたらすごいですよ。ぜひ。

(古川委員)

こうやって事業を行うことによって多分保護者の方々や地域の方々も凄く興味をもってくれると思うので、一緒に校長先生だけでなく先生方とかご家庭でもそういった取り組みを強調していただければ、良い方向に行けるのではないかと思います。

(岡嶋町長)

PTA との関わりも必ず出るところですよ。やってみてどうかという話の中で、やはりある程度瞬発的に影響を受ける要素が何かと言われると、やはりお金なんですよ。だからそういった先ほど少し話をしました先生たちの研修という部分でもそうですし、地域の部活という部分でもそれでもやはり色々な壁が出てくると思いますし、色々な部分にチャレンジングに使っていただければ良いかと思っています。やはり学校長も学校の先生もそういうものでいいんだという地域を作っていきたいという部分もあったりします。

(毛利教育長)

これは今校長たちが計画を出すわけではなくて、あくまでも予算が通って新年度の学校の新体制の中で当然校長が変わるところもあるだろうし、どんなアイデアが出てくるかは非常に楽しみです。三輪委員がおっしゃるとおり、プレッシャーもきっとあるだろうし、期待してみたいと思います。

(三輪委員)

今までにないことですかね。ボランティアばかりでは地域の人たちにやはりお願いしづらい部分もありますものね。そういう意味では気持ちだけでもその中で差し上げられれば良いかなと。本当にいろんな意味で有効活用できれば良いですね。ぜひ（予算を）取ってきてください。だんだん人数も少なくなってきた、子供たちの進学の数も少なくなってきた、地域の方々も高齢化してきていますでしょう。そういう時にやはりその地域の知恵みたいなものを入れて、お年寄りも子供も一緒になって学べるみたいなそういう機会がこんなので色々工夫していただけると良いですね。一方通行の付き合いになるのではなく、広く地域の方々と何かをやるとなると、やはりこういったものが土台にあると、活用できるのかと思います。学校はみんなの学びの場であってほしいですね。

(岡嶋町長)

実際に江差町で15万円という規模の中でやっているんですよね。なかなか1年間で15万円というのはどうやって活用できるかなければ、かなり自由はあるにせよ、目的なんかもどんどん絞られていくと思いますし。実際にこの金額の根拠が何かという部分が当然議会でも話されると思います。やはりそこは真正面から実験的な要素が強くて、これで凄く効果が出てもっとあった方が良いというそういう合意形成の上で議論になっていくのであれば、そこは増やしていくべきだし、逆もまた然りという風にはとらえています。

(三輪委員)

期待できる施策です。町長や教育長の強い後押しでぜひ議会を通していただいて、そして学校現場で実践できたらと、そういうことを希望しますし、ぜひそうあってほしいと思います。とても楽しみです。

(岡嶋町長)

ありがとうございます。アイデアが仕組みとして出てくる事業というのは、携わる人間が楽しくなければという部分もあります。他何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(教育委員一同「はい」の声)

(岡嶋町長)

それでは続いて5番その他に移りたいと思います。何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(教育委員一同「はい」の声)

(岡嶋町長)

はい、ありがとうございます。それでは以上をもちまして、令和6年度第1回森町総合教育会議を終了いたします。皆様お疲れさまでございました。